

令和8年度第1回長崎市社会教育委員会議の協議結果について

- 1 日 時 令和8年6月4日（木） 14時00分から16時00分まで
- 2 場 所 長崎市中心公民館2階 第4研修室
- 3 出席者 委 員 10人中9人出席
事務局 教育総務部長、生涯学習企画課長、同課地域学習係長、
職員1人

4 議事内容

- (1) 議長及び副議長の選出について
それぞれ選出
- (2) 議事録の記録方法等について
議事録は要点記録とすること及び会議は原則公開することを決定
- (3) 社会教育及び社会教育委員について
事務局から説明
- (4) 長崎市の取組及び施設の状況について
事務局から説明
- (5) 長崎市教育委員会からの諮問事項について
事務局から説明
- (6) 長崎県社会教育委員連絡協議会について
理事及び監事をそれぞれ選出
- (7) 活動計画について
事務局から説明

5 主な意見

- (1) こども・若者から高齢者までが集える事業を考えたときに、少子高齢化が課題であり、こども主体の取り組みとして、未来を担うこどもたちの教育、育て方、環境などを整えていかないといけない。

(2) 昔は自治会単位で子ども会があり、子ども会連合会や青少年育成協議会、PTAなどの団体がそれぞれ目的をもって活動していたが、市が進めている地域コミュニティ連絡協議会の役割を教えてください。

→自治会など地域の各団体の活動の維持が難しくなっている現状から、1つの団体として活動を整理しながら、時代に合った形で地域活動が持続できるよう取組まれているもの。

(3) 実際のコミュニティ協議会の活動で、子ども会に加入できないこどもたちも保護者も一緒に参加できるような工夫をして取り組んでいる。

(4) 自治会や子ども会の加入にかかわらず、すべてのこどもが参加できるのは学校と一緒にした活動だと思う。地域の方に長崎の伝統などを教えていただく活動などが広がることを期待している。

(5) 小学校では、生活科の「昔遊び」の学習で地域の方に講師を依頼したり、総合的な学習の時間で地域の老人施設と交流したりするなど、地域人材に協力いただく活動がある。

(6) コミュニティスクール導入校では、地域コミュニティ連絡協議会や民生委員、学校PTA、地元企業など様々な団体と協力しながら学校行事を行うことができるため、全てのこどもたちが参加することができる。

(7) 地域によって、主体になる組織が異なるし、それぞれの特色がある。しかし、学校も含め様々な団体が協力するためには、コーディネーターの存在が重要である。活発に活動をしている地域や学校には、リーダーシップを発揮し、コーディネートできる人材がいる。このような人材を育成していくことが大事だと感じる。

(8) こども・若者が参画するためには、中堅層（30～40代）が非常に大切であると考えている。高齢者の経験は貴重であるが、引き継ぐ中堅層が少ないことが多い。子育て世代の中堅層の楽しい姿をこどもたちが見ることは、多世代交流に貢献すると思う。

- (9)運動会のPTA行事で地域対抗の綱引きがあったが、地域の保護者世代が参加し盛り上がった。このような機会が世代の交流を生むためにも大事だと感じた。
- (10)こども向けのイベントのチラシは保護者の情報端末に送られることが多いが、多忙である保護者世代の参加は課題で、保護者が興味をもたなければ、こどもはイベントがあることを知らないままである。デジタルはお金もかからず便利であるが、手元に届くようなアナログも効果があり、口コミなどで繋がることもある。
- (11)地域のリーダーの育成について、地域の方と学校の関わり方の中で、コミュニティスクールや地域学校協働活動の説明もあったが、これまで地域の活動をけん引してきたリーダーがどのような経験を通じてリーダーとなったか知ることも、多世代のリーダー育成のヒントになるのではないかと。
- (12)経験を振り返ると、若いころのサークル活動がきっかけで、先輩に教えてもらいながら、青年団にも参加し、活動が広がって、様々な方々と出会って、苦労もあるが仲間たちと楽しく汗を流す経験が今の活動に繋がっている。
- (13)地域によってはリーダーの考えが、多世代の参加のハードルを上げている場合などもある。柔軟な考えや、地域で何が大切かなど、コーディネートする役割を意識することも大事。
- (14)実際にリーダー育成の取り組みなどは行われているのか。
- 県の取り組みが長崎市で開催される予定がある。それ以外にも地域コミュニティ連絡協議会の活動発表会や、PTA連合会の研修会などは行われている。
- (15)こども・若者から高齢者まで多世代交流を考えると、やはりこどもがきっかけになり、親御さんやおじいちゃんおばあちゃんも関わろうと

意識していくと思う。

- (16) 学校もカギになってくると思うが、地域との連携は必要であり大事な
ことであるが、教員も働く学校と自分の住まいの地域と両面でのかか
わりが生じる。過度な要望や期待で大事な学校運営に影響しないよう
に、地域の方のご協力もいただきながら双方向で取り組んでいけると
良いと思う。
- (17) 地域にある企業や大学などと交流がある。中学生が大学に研修に行っ
たり、将来先生を目指す大学生が学校の草刈りなどに参加したり、様々
な年齢層の参加があり地域住民も活気づく。地域にある組織や学校、
企業等をどのようにつなげていくかということもカギになってくる。
- (18) 今後の整理していく中で、現状の難しさや、カギとなる言葉などが出
し合えた。